

防疫 台湾も国際貢献



総会を前に本紙に寄稿した。

台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表Ⅱ写真ⅡがWHO年次

台湾は新型コロナウイルスの防疫の成果を世界各国と分かち合うことを望んでいるが、今年もWHOから年次総会への招待状を受け取ることができなかった。

WHOは「加盟国が決めるこ

とで、事務局に決定権がない」との見解を示したが、台湾にはオブザーバーとして参加していた前例がある。中国の反対などから台湾の参加が排除されていることは非常に残念だ。民主主義を守りながら、厳格な水際対策と効果的な隔離など防疫で成果を上げてきた台湾モデルは、世界の防疫に必ず役立つはずだ。台湾は、積極的に国際貢献したいと願っている。

日本の菅首相らが台湾参加へ

駐日代表「WHO総会排除 残念」

の支持を重ねて表明されたことに深く感謝している。G7外相会議の共同声明でも台湾のWHO総会参加支持が明記されたことは、非常に心強い声援である。

台湾は今月、インドに酸素濃縮器150台、酸素ボンベ500本などの医療物資を提供した。日米とともに「グローバル協力訓練枠組み」(GCTF)のワークショップを定期的に台湾で開催し、公衆衛生や環境、防災など様々な分野で人材育成の協力と交流を行っている。台湾は防疫面でも信頼できるパートナーである。